

若手研究者問題と 情報系

日本学術会議
若手アカデミー委員会
企画パネル討論

目的

いわゆる「若手研究者問題」について、

- ・ 「情報系」と他分野
- ・ 大学教員と企業エンジニア・マネージャ
- ・ 「若手」とベテラン

のパネリストと**会場**が**実感**に基づき
率直に議論、現状と未来への**展望**を得る

– 直ちに結論を求めるものではない

News

学協会「若手の会」代表者 シンポジウム参加のお願い 2013年3月17日 (日) 13時～17時半 東京・大阪・インターネット

若手アカデミー委員会メンバー2名 **第9回(平成24年度)日本学術振興会賞(内1名 日本学士院学術奨励賞)** 受賞決定

学術の動向2012年9月号 若手アカデミー委員会 特集 (無料公開中)

Navigation

若手アカデミー委員会とは / About Young Academy of Japan

委員長挨拶 / Greeting from the Chair

メンバー紹介 / Members
イベント / Events

若手アカデミー委員会とは / About Young Academy of Japan



日本学術会議若手アカデミー委員会は、日本学術会議内に設置されている、30～45歳代を中心とする若手研究者による組織です。

日本学術会議は「科学に関する重要事項を審議し、その実現を図ること」および「科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させること」を職務としています。しかし、その構成員は50～60歳代が中心となっており、次世代を担う

若手科学者の声は必ずしも反映されていませんでした。若手の立場から、いまある問題に対して智慧を絞り、発言し、活動することは、よりよい日本の未来に必須であると考えます。

Young Academy of Japan is a committee established within the Science Council of Japan, consisting of young scientists broadly ranging from 30 to 45 years of age.

The Science Council of Japan has two main functions: (1) to investigate, and help to resolve, important scientific issues; (2) to foster coordination between distinct scientific research areas toward increased productivity. Since the Science Council of Japan is composed mainly of members whose ages range in the fifties and sixties, the Council does not necessarily reflect the voices of young scientists, who are the bearers of the future of Japan.

Clearly, it is vital to the future of Japan that the younger generation of scientists be engaged in tackling current problems, speaking out, and taking action. Therefore, after 18 months of planning and preparation, Young Academy of Japan was launched to conduct, primarily, two kinds of activities: social and scientific.

Our social activities include proposing activities to be initiated

「若手研究者問題」

「若い研究者に多いとされることがある問題」

- 研究ポストの不足 **63**
- 研究ポスト以外への就職の困難 **49**
- 若手研究者自身の能力の不足 **44**
- 研究予算の不足 **40**
- 私生活（育児等）との両立の困難 **25**
- 研究テーマの自由の不足 **15**

(アンケート回答103件中)

パネリストご紹介 (50音順)

榎木 英介 氏



- 近畿大学 医学部 講師
- サイエンス・サポート・アソシエーション代表
- 科学ジャーナリスト賞2011



賀沢 秀人 氏



- **グーグル株式会社**
シニアエンジニアリングマネージャ
 - **機械翻訳・ウェブ検索開発担当**
 - **パーソンファイnder・**
避難所名簿共有サービス開発者

駒井 章治 氏



- **奈良先端科学技術大学院大学
バイオサイエンス研究科 准教授**
- **日本学術会議 若手アカデミー委員会
委員長**

松岡 聡 氏



- **東京工業大学 学術国際情報センター
教授**
 - **TSUBAMEスパコン開発者**

森本 典繁 氏



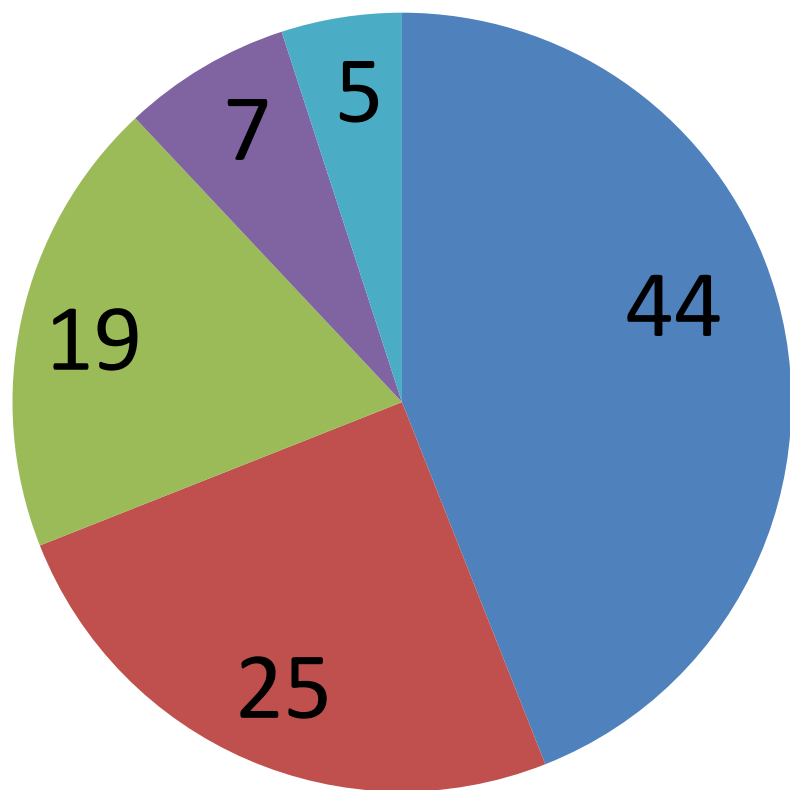
- **日本アイ・ビー・エム株式会社
東京基礎研究所 所長**
- **内閣府 総合科学技術会議
基礎研究及び人材育成部会 委員**

横山 広美 氏



- **東京大学 大学院 理学系研究科 准教授**
– **広報室 副室長**
- **日本学術会議 若手アカデミー委員会**
委員

貴方の研究分野において 「若手研究者問題」はあると思いますか？



- そう思う
- ややそう思う
- どちらとも言えない
- あまりそう思わない
- そう思う思わない

「若手研究者問題」

「若い研究者に多いとされることがある問題」

- **研究ポストの不足 63**
- 研究ポスト以外への就職の困難 49
- 若手研究者自身の能力の不足 44
- 研究予算の不足 40
- 私生活（育児等）との両立の困難 25
- 研究テーマの自由の不足 15

(アンケート回答103件中)

参考資料

- **国立大学における若手教員について**
- **基礎研究と人材育成に関する若手研究者アンケート（若手アカデミー委員会）**
- **基礎研究及び人材育成部会システム改革に関する（中間）まとめ案**
- **第105回総合科学技術会議（平成24年11月2日）議事要旨**
 - **以上、総合科学技術会議「基礎研究及び人材育成部会」資料より（強調は住井による）**

「若手研究者問題」

「若い研究者に多いとされることがある問題」

- 研究ポストの不足 63
- 研究ポスト以外への就職の困難 **49**
- 若手研究者自身の能力の不足 44
- 研究予算の不足 40
- 私生活（育児等）との両立の困難 25
- 研究テーマの自由の不足 15

(アンケート回答103件中)

「若手研究者問題」

「若い研究者に多いとされることがある問題」

- 研究ポストの不足 63
- 研究ポスト以外への就職の困難 49
- **若手研究者自身の能力の不足 44**
- 研究予算の不足 40
- 私生活（育児等）との両立の困難 25
- 研究テーマの自由の不足 15

(アンケート回答103件中)

「若手研究者問題」

「若い研究者に多いとされることがある問題」

- 研究ポストの不足 63
- 研究ポスト以外への就職の困難 49
- 若手研究者自身の能力の不足 44
- **研究予算の不足 40**
- 私生活（育児等）との両立の困難 25
- 研究テーマの自由の不足 15

(アンケート回答103件中)

「若手研究者問題」

「若い研究者に多いとされることがある問題」

- 研究ポストの不足 63
- 研究ポスト以外への就職の困難 49
- 若手研究者自身の能力の不足 44
- 研究予算の不足 40
- 私生活（育児等）との両立の困難 **25**
- 研究テーマの自由の不足 15

(アンケート回答103件中)

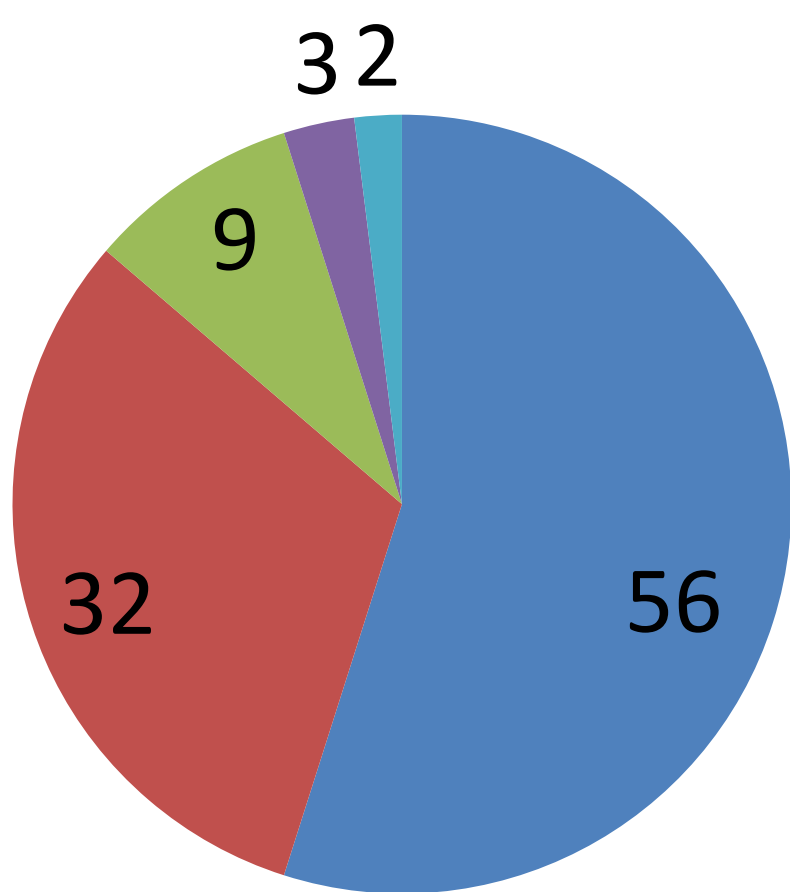
「若手研究者問題」

「若い研究者に多いとされることがある問題」

- 研究ポストの不足 63
- 研究ポスト以外への就職の困難 49
- 若手研究者自身の能力の不足 44
- 研究予算の不足 40
- 私生活（育児等）との両立の困難 25
- 研究テーマの自由の不足 **15**

(アンケート回答103件中)

今回のパネル討論のような 「若手研究者問題」に関する議論を、 学会等の場で行うことは良いと思いますか？



- 良いと思う
- どちらかと言えば良いと思う
- どちらとも言えない
- どちらかと言えば良くないと思う
- 良くないと思う